

## 高倉谷川砂防堰堤について

### 1. はじめに

高倉谷川は、源を瀬戸の山間西高倉、東高倉、立成の3峡谷により発して、瀬戸<sup>べんけい</sup>辨慶岩において田倉川に入る10Kmの流域です。

福井県の文献、明治36年1月調(砂防改革大要)によれば明治28年9月大豪雨に見舞われ、多量の流水による6m余に及ぶ破壊土砂を推積し、峡谷に散在していた耕地を全て埋め尽くしたと記録されている。(明治36年1月調 砂防改革大要 福井県)その後明治30年の(砂防法)の制定を受け、福井県における近代的な砂防事業が実施されるようになった。高倉谷川においては、明治33年に字「立成・東高倉・西高倉」明治35年に字「城ノ平・殿入・辨慶岩・大畠谷口・大入」の800km<sup>2</sup>が砂防設備地として指定され(大正6年3月調 砂防工事福井県)第1期砂防施工地域として明治33年度より「石積堰堤導水提・水通工・護岸石積・床拡張・山腹石積・筋芝工・積苗工・苗木植付」等の様々な工事が展開される事となった。

### 2. 高倉砂防堰堤の概要

明治33年から砂防工事が始まり3箇所<sup>の</sup>砂防堰堤が施工されました。明治35年には10箇所、明治39年には3箇所の砂防堰堤が施工されました。

堰堤は全て巨石による野面空石積みで高倉川独特の技法で積まれた学術的に高い歴史的砂防施設です。

平成17年6月、建設時期特定記念碑2箇所を発見しました。1箇所は立成2号砂防堰堤の右岸下流で発見。記念碑には明治35年度「主任 大屋卯吉郎、助手 野坂宇助」と記されてありました。2箇所目は、西高倉砂防堰堤袖左岸3m上にあったのが35年前の大雪で下へ落ちていた。

その記念碑には

主任:大屋卯吉郎

助手:〇〇〇次郎

工夫:中村和吉

定夫:榎井富三

石工:田中〇助

惣代:田中文〇、〇上三〇

が記されていた。

当時福井県には砂防専門管がいなかったため岐阜県より大屋卯吉郎氏を招き福井県砂防工事主任に起用し巨石堰堤の完成に当たさせた。

### 3. おわりに

高倉砂防堰堤は始めに述べたように、明治33年頃から7年の歳月をついやして完成したもので県内では「赤谷堰堤」と同じ時期に完成したもので全国的にも古いものである。しかも、100年以上経った現在も堰堤として機能を十分果たしており、規模の大きさや堰堤の特徴からも、構造物としての価値は高く、学術的にも貴重である。私たちは平成17年5月21日、高倉谷川砂防堰堤の会を設立し歴史的砂防堰堤郡の調査保全だけでなく施設の歴史的、文化的資源として地域の活性化と文化の向上に資する活動を展開しています。

以上

# 高倉谷砂防堰堤概要

## 1 西高倉 1 号砂防堰堤

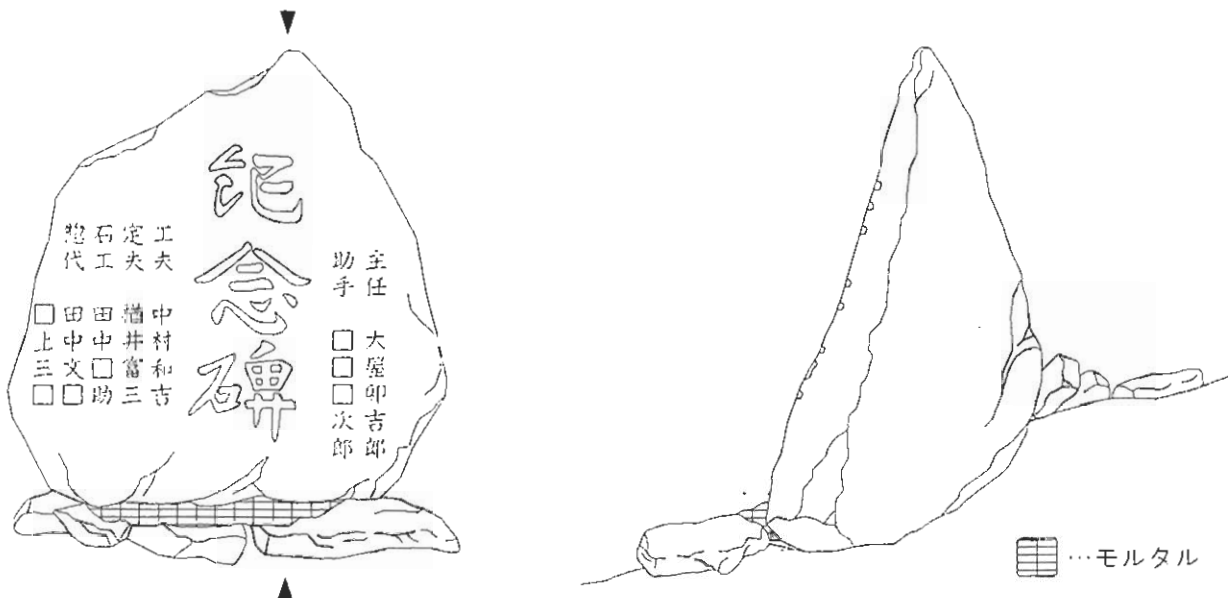
所 在	福井県南条郡南越前町高倉		
構 造	空石積堰堤		
規 模	堰長：16.0m	堰高：9.6m	天端幅：3.6m
施工年度	明治 30 年代（推定明治 33 年）		
設 計	福井県		
施 工	現地の記念碑に銘文あり		



「西高倉 1 号砂防堰堤」は、西高倉谷川の下流で高倉谷川との合流地点から約 100m 上流に位置し、当時の砂防工事台帳と現地に残る記念碑から、明治 33 年に造られたものと考えられる。

本堰堤は、堰長 16.0m、堰高 9.6m の空石積堰堤で、法 1 割の石積勾配がつけられている。天端幅は 3.6m で、堤中央の水通し部に向かって勾配がつけられており、兩岸の岩盤を利用し造られている。空石積は全般に野面積みで積まれており、基底部では 150cm 程度の巨石を用いているが、頂部と天端の水通し部に向かっては 120cm 程度の大きさになり、天端の兩岸では 50～70cm 程度の小さなものが使われている。また、堰堤下流の右岸側には 20m 以上にわたって石積みの護岸が施されている。

このように「西高倉 1 号砂防堰堤」は、周辺地形を利用し自然と融合した堰堤であり、巨石を用いるなど技術的にも優れており、貴重な歴史的建造物である。



西高倉 1 号砂防堰堤 記念碑 (S=1/20)